



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月13日

上場会社名 NANOホールディングス株式会社 上場取引所 東
コード番号 4571 URL <https://www.nano-hd.com/>
代表者 （役職名）代表取締役会長兼社長CEO （氏名）松村 淳
問合せ先責任者 （役職名）執行役員CFO （氏名）藤本 浩治 TEL (03) 6432-0020
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期第3四半期	130	57.5	△602	—	△591	—	△647	—
2025年3月期第3四半期	83	△20.3	△485	—	△446	—	△595	—

（注）包括利益 2026年3月期第3四半期 △542百万円（－％） 2025年3月期第3四半期 △488百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	△9.06	—
2025年3月期第3四半期	△8.45	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期第3四半期	5,954	2,676	44.4
2025年3月期	3,996	2,739	68.2

（参考）自己資本 2026年3月期第3四半期 2,643百万円 2025年3月期 2,724百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—	0.00	—		
2026年3月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	156	44.0	△1,060	—	△1,002	—	△1,061	—	△14.72

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	73,994,158株	2025年3月期	70,625,458株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	32,329株	2025年3月期	30,429株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	71,479,889株	2025年3月期3Q	70,491,074株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1.経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(重要な後発事象の注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間において、売上高は130,941千円（前年同期比57.5%増）、営業損失は602,929千円（前年同期営業損失485,588千円）、経常損失は591,116千円（前年同期経常損失446,506千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は647,436千円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失595,315千円）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間におきまして、以下の営業外収益及び営業外費用並びに特別損失を計上しております。

- ・外国為替相場の変動による為替差益20,741千円を営業外収益に計上しております。これは主に、当社の保有する外貨建預金の評価替えにより発生したものであります。
- ・雑収入7百万円を営業外収益に計上しております。これは主に、当社の連結子会社PrimRNA AU Pty Ltdにおいて、豪州における研究開発税制の適用による還付金を受領したことによるものです。
- ・支払利息11百万円を営業外費用に計上しております。これは第1回無担保社債（適格機関投資家限定）に係る支払利息であります。
- ・社債発行費25,000千円を営業外費用に計上しております。これは第1回無担保社債（適格機関投資家限定）を発行したことによるものです。
- ・転換社債償還損54,024千円を特別損失に計上しております。これは第6回無担保転換社債型新株予約権付社債の繰上償還を行ったことによるものです。

当第3四半期連結累計期間における各事業の状況は以下のとおりです。

（投資事業の状況）

当社は、2025年12月11日に開催した臨時株主総会において商号を「NANOホールディングス株式会社」へ変更し、ヘルスケア分野に特化した戦略的投資事業を正式に開始いたしました。同時に、2026年4月1日のホールディングス体制移行に先立ち、投資事業及び創業事業の新経営体制が実質的に始動しております。

この度の投資事業参入は、国内バイオ企業を取り巻く市場構造の変化を踏まえたものです。東証グロース市場における上場・維持基準の見直しにより、研究開発型企業は従来以上に事業基盤や資本政策に関して求められる水準が高くなっております。しかしその一方で、政府による創薬力強化政策が拡充され、非臨床から後期臨床段階に至るまで支援が広がるなど、外部環境も変化しています。こうした政策支援の拡大と市場環境の変化が同時進行する中で、成長段階に応じた資金供給や経営支援を柔軟に提供できる仕組みが重要性を増しています。当社は、この政策動向と市場環境の双方を踏まえ、魅力ある創業ベンチャーやヘルスケア事業を適切に支援するとともに、M&AやIPOなどのEXIT（出口）戦略を通じた戦略的投資により、当社自身の成長につなげてまいります。

当第3四半期連結累計期間において、投資事業につきましては、投資専門子会社 Nano Bridge Investment株式会社（NBI）を設立しました。また、2026年1月には適格機関投資家に認定され、SBIホールディングス株式会社の連結子会社であるSBI新生企業投資株式会社を親会社とするSBI新生グロースキャピタル株式会社（SGC）と共同でNBI-SBISGC 1号投資事業有限責任組合（NSSファンド-1）を組成いたしました。現在、未公開ヘルスケア企業や大企業の事業分割案件を中心に複数の企業と秘密保持契約を締結し、事業価値向上に向けた検討を進めております。

（創業事業の状況）

創業事業（NANO mRNA事業）においては、TUG1 ASO及びRUNX1 mRNAの臨床開発を最優先で進めるとともに、新規RNA創薬を更に加速し、ライセンスアウトを含む収益機会の最大化を図ります。mRNAエンコード抗体、in vivo CARTと新規DDS技術を融合し、新規のモダリティ領域における競争優位性の確立を目指し、国内外パートナーとの共同研究を通じてパイプライン拡充を進めてまいります。なお、2026年4月1日より、NANO mRNA事業は、新設子会社「NANO mRNA株式会社」に移管します。

臨床パイプラインの状況につきましては以下のとおりです。

TUG1 ASO（再発膠芽腫）：

2025年12月9日に第43回日本脳腫瘍学会学術集会にて名古屋大学大学院 医学研究科 脳神経外科学 齋藤竜太教授より本製剤の第Ⅰ相臨床試験の途中経過が報告され、同日開示いたしました。本製剤はレベル3まで重篤な副作用を示さず安全性が確認され、治療法が限られる難治性の脳腫瘍（もしくは膠芽腫）に対し、1例で腫瘍の縮小を伴う長期SD（Unconfirmed PR）の所見が得られていることが公表されました。レベル4までの全試験結果は2026年4月米国サンディエゴにて開催される米国がん学会において報告を予定しています。

RUNX1 mRNA（変形性膝関節症）：

2025年11月にオーストラリアで治験実施施設がオープンし、第Ⅰ相臨床試験を開始するとともに、患者登録のためのスクリーニングを実施しております。現在、基礎疾患や体重に関する条件により組入れ対象とならない方が一定数いらっしゃる等により患者の選定に時間を要しています。医療機関と連携し、スクリーニング機会拡大などを通じて登録の加速化を進めています。

販売事業につきましては、株式会社アルビオンが販売する美容液エクラフチュール及び薬用美白美容液エクシア ブライトニング イマキュレート セラム用の当社技術を応用した原材料を供給しております。これにより、

当第3四半期連結累計期間において、原材料の販売による売上高64,200千円を計上しております。

コムレクス®耳科用液1.5%（開発コードENT103）は、2023年6月からセオリアファーマ株式会社により販売されております。契約変更による利益分配方法の見直しにより、当第3四半期連結累計期間において、売上高66,741千円を計上しております。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における資産は、現金及び預金の増加、有価証券の減少等により、前連結会計年度末に比べ1,957,807千円増加し、5,954,691千円となりました。負債は、転換社債型新株予約権付社債の償還、第1回無担保社債（適格機関投資家限定）の発行に伴う増加等により、前連結会計年度末に比べ2,021,042千円増加し、3,278,096千円となりました。純資産は、資本金及び資本準備金の増加、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による利益剰余金の減少、その他有価証券評価差額金の増加等により、前連結会計年度末に比べ63,235千円減少し、2,676,595千円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期連結業績予想につきましては、主要経営指標であります売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益を、それぞれ156百万円（前連結会計年度比44.0%増）、△1,060百万円（前連結会計年度営業利益△755百万円）、△1,002百万円（前連結会計年度経常利益△687百万円）、△1,061百万円（前連結会計年度親会社株主に帰属する当期純利益△835百万円）を見込んでおり、2025年11月14日の「2026年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」で公表した通期業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,707,452	4,069,628
受取手形及び売掛金	—	25,521
有価証券	1,798,380	1,199,940
原材料及び貯蔵品	404	147
その他	115,416	186,798
流動資産合計	3,621,653	5,482,035
固定資産		
有形固定資産	0	0
無形固定資産	0	0
投資その他の資産		
投資有価証券	222,120	213,000
その他	153,110	259,656
投資その他の資産合計	375,230	472,656
固定資産合計	375,230	472,656
資産合計	3,996,884	5,954,691
負債の部		
流動負債		
転換社債型新株予約権付社債	540,241	—
1年内償還予定の社債	—	200,000
未払法人税等	17,630	11,282
預り金	340,129	369,464
その他	305,431	343,503
流動負債合計	1,203,432	924,249
固定負債		
社債	—	2,300,000
資産除去債務	31,177	31,402
その他	22,444	22,444
固定負債合計	53,621	2,353,846
負債合計	1,257,054	3,278,096
純資産の部		
株主資本		
資本金	166,392	397,186
資本剰余金	5,546,732	5,777,527
利益剰余金	△2,986,887	△3,634,324
自己株式	△27	△27
株主資本合計	2,726,209	2,540,361
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,111	90,940
為替換算調整勘定	—	11,705
その他の包括利益累計額合計	△2,111	102,645
新株予約権	15,732	33,588
純資産合計	2,739,830	2,676,595
負債純資産合計	3,996,884	5,954,691

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	83,116	130,941
売上原価	28,116	14,117
売上総利益	55,000	116,824
販売費及び一般管理費	540,588	719,754
営業損失(△)	△485,588	△602,929
営業外収益		
受取利息	18,640	20,343
為替差益	20,939	20,741
雑収入	67	7,712
営業外収益合計	39,646	48,797
営業外費用		
支払利息	—	11,506
社債発行費	—	25,000
株式交付費	47	—
雑損失	516	477
営業外費用合計	564	36,984
経常損失(△)	△446,506	△591,116
特別損失		
固定資産除売却損	0	0
減損損失	1,048	211
転換社債償還損	—	54,024
投資有価証券評価損	146,000	—
特別損失合計	147,048	54,235
税金等調整前四半期純損失(△)	△593,554	△645,351
法人税、住民税及び事業税	1,760	2,085
法人税等合計	1,760	2,085
四半期純損失(△)	△595,315	△647,436
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△595,315	△647,436

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）
四半期純損失（△）	△595,315	△647,436
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	106,540	93,051
為替換算調整勘定	—	11,705
その他の包括利益合計	106,540	104,756
四半期包括利益	△488,775	△542,680
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△488,775	△542,680
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

当社グループは、医薬品等の研究開発及び製造販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載は省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年7月18日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として新株式を2025年8月15日に発行しております。また、2025年10月30日に発行した第22回新株予約権（行使価額修正条項付）の一部行使が行われております。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ230,794千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が397,186千円、資本剰余金が5,777,527千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象の注記)

当社子会社であるNano Bridge Investment株式会社（NBI）は、2026年1月30日付でヘルスケア領域における成長企業への投資機会を拡大するため、SBIホールディングス株式会社の連結子会社であるSBI新生企業投資株式会社を親会社とするSBI新生グロースキャピタル株式会社（SGC）と共同で新ファンド「NBI-SBISGC1号投資事業有限責任組合（NSSファンド-1）」を組成いたしました。

1. 本ファンド設立の背景

日本では政府が創薬力の強化を重要政策として進め、医薬品・ヘルスケア産業の成長を後押ししています。しかしその一方で、市場構造の変化により技術力の高い多くの成長企業が資金調達の壁に直面しています。

この政策の追い風と市場構造変化とのギャップを埋め、日本のヘルスケア産業の成長を継続的に支えるため、NBIは初めてとなるNSSファンド-1を立ち上げ、日本のヘルスケア領域に新たな資金供給の枠組みを提供します。

2. 本ファンドの概要

(1) 名称	NBI-SBISGC1号投資事業有限責任組合（NSSファンド-1）
(2) 組成日	2026年1月30日
(3) 無限責任組合員	Nano Bridge Investment株式会社 SBI新生グロースキャピタル株式会社
(4) 規模	100～150億円
(5) 運用期間	2026年1月30日～2032年12月31日
(6) 目標IRR（内部収益率）	25%

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	22千円	9千円